

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171500499), 法人名 (社会福祉法人 七飯町社会福祉協議会), 事業所名 (七飯町グループホームひだまりの家 ユニット1), 所在地 (北海道亀田郡七飯町字中野210-2), 自己評価作成日 (平成28年10月24日), 評価結果市町村受理日 (平成28年12月8日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関わりを大切にするため、様々なボランティアを受け入れ、趣味活動に協力していただいたり、町内の清掃やお祭りへの参加を通じて、地域の方々との交流を図っており、家族会の際には、町内老人会の方々と普段取れたての野菜を差し入れて下さる近隣農家の方を招いて、グループホームへの理解を深めていただいております。入居者様が、笑顔で、心地よく暮らせること、御家族様が安心して信頼できること、また職員が活き活きと動き、より良質なサービスを提供するため、日々思慮し、努力しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action kouhyou detail 2016 022 kihon=true&JigyosyoCd=0171500499-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成28年11月14日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

七飯町郊外の自然豊かな環境の中に当事業所は立地している。1部2階建ての建物で、居宅介護支援事業所と訪問介護支援事業所が併設し、通所介護事業所が隣接している。母体運営法人である七飯町社会福祉協議会は、「安心、安全、福祉のまちづくり」をスローガンに早くから行政と連携協働して認知症の啓蒙に努め、職員の資格取得などの育成にも取り組んでいる。大牟田市から講師を招いての研修会は、町の中心部で徘徊役がパニック状態となり、地域の方々の協力で保護されるまでの「SOSネットワーク模擬訓練」を、行政と町内にある全福祉施設と合同で実施している。管理者と職員は多種多様なボランティアを定期的に導入して地域との交流を図り、利用者の個性を重視した介護実践に努め、残存能力の維持、向上に繋げている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を廊下や事務所に掲示し、日常的に意識して理念を共有、実践に取り組んでいます	法人の理念を基本にその人らしく継続して地域生活を送るための支援に取り組んでいる。年度初めやユニット会議の中で理念について触れながら職員間の意見の統一を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃やお祭りへの参加、文化祭への出展、ボランティアや近隣農家の方々と交流を行っています	母体の社会福祉協議会では、ボランティアを登録制にして活動時間をポイントに変え、町内限定の商品券を発行しており、多種多様なボランティアが訪れている。近くの農家の方などの関わりも積極的にもっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域交流の際に伝えていきます		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2か月に1度開催し、利用者やサービスの現況等について、報告や意見の集約を行い、サービスの向上に努めています	町担当者、家族、地域の方々の参加で定期的開催している運営推進会議は、年間事業計画、運営状況、職員の資質向上の取り組み、行政との連携など多岐にわたり協議し、サービスに反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ出席して頂き、意見交換や情報を共有し、協力関係を築くよう取り組んでいます	長年にわたり行政と連携して福祉の町づくりに取り組んでいる事業所であり、日常的に連携を図りながら協力体制を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の人権遵守を基本とし、全職員が正しい理解を共有し、拘束をしないケアに取り組んでいます	身体拘束廃止に関する事業所の方針を提示していると共に、家族に説明して同意を得ている。職員は研修会に参加して理解を深め、抑圧感のない自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で声をかけ合い、防止に努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、現在活用されている方がおり、継続できるよう支援しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、十分な説明を行い、理解・納得の上締結しています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や推進会議・家族会の際、意見や要望を伺い、反映に努めています	年2回の家族会や面会時、運営推進会議など意見や要望を表わせる機会を設け、意見交換や情報交換をしている。利用者、家族アンケートの結果からも家族の信頼が厚いことが伺える。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議や日々のミーティング、適宜個別の面談において意見や提案を反映するように努めています	年2回、管理者は個人面談を通して職員の意見や要望、提案を聴く機会を設けている。年1回、自己評価の実施と法人担当者との個人面談を実施し、就労環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に考慮し、待遇の整備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価シートを活用し、内外の研修参加の機会を設け、人材の育成に取り組んでいます		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会は少ないが、認知症介護実践者研修等の相互受け入れを行っています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉に耳を傾け、安心して暮らせるよう努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対しても、傾聴に取り組み、信頼関係の構築に努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が第一に必要なとする支援を見極めるため、早い段階でのニーズの抽出ができるよう努めています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に暮らす」という認識を持ち、日常生活を共有し、支え合う関係づくりに努めています		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相互に相談しながら、共に本人を支えていけるよう情報を共有しています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会、自宅や馴染みの地域への外出、馴染みの人へ手作りの絵手紙や年賀状を送る等関係継続の支援を行っています	契約時に家族の面会についての意向を伺い、個々に合わせた対応をしている。知人や友人には自作の絵手紙、年賀状などで近況を伝えるなど、関係が継続できるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係に気配りし、職員が調整役となり、支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談等の支援に努めています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、一人ひとりの思いを把握するよう努めています	日々の業務の中で一人ひとりの思いを確認し、自己選択や自己決定を尊重している。困難な時には表情や態度で判断したり、家族から情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・ケアマネージャー等から情報を収集し、把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の中で、心身の状態に気を配り、記録や申し送りにより、把握しています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、本人と家族の要望を聴き、ユニット会議で検討の上、介護計画を作成しています	更新時にかかりつけ医の意見や助言を反映し、本人、家族の意向を取り入れ、ユニット会議の中で課題の有無や評価を検討し、現状に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や行った支援については、ありのまま個別記録に記録し、見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況により、受診時の付き添い、送迎等個別に対応しています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	絵手紙・書道・生け花・読み聞かせ等、地域ボランティアの訪問があり、趣味活動の支援協力を継続していただいています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の主治医の受診を重視しており、往診も対応していただいています	従来のかかりつけ医に受診している。月1回の往診があり、情報提供が得られる関係を築きながら、看護職員を中心に、利用者の健康状態を把握している。夜間体制も完備している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化や気づきを即時看護師へ連絡(24時間連携体制)し、指示を受け、迅速に対応しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は経過を把握し、医師の面談時は家族了承の上同席し、相談できる関係づくりを行っています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます	本人や家族の意向を確認し、相談を行い、方針を共有の上、支援に取り組んでいます	契約時に看取りについての指針を家族に説明して同意を得ている。外部研修会に参加した職員が伝達講習をして職員間の共有を図り、チーム全体で取り組む体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を受講し、訓練を行い、事案発生に備えています。AED設置にて使用方法について学んでいます		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	あらゆる災害を想定し、避難訓練を行っており、地域との協力体制も築いています	併設の事業所と合同で消防署員立会いの下、役場担当者、地域や家族が参加して昼夜想定訓練を実施している。河川の増水を想定した訓練は、安全な場所へ利用者を避難誘導し、備蓄品も用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシーに配慮し、その方に適した声かけや対応を行っています	管理者と職員は利用者の尊厳や誇りを損ねないように、言葉使いや羞恥心、居室の出入りなどには特に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を引き出せるような対応を心掛けています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調や気分を考慮し、本人の希望に沿うよう努めています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用したり、本人の希望と時季に合った着衣ができるよう支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力量に応じて、職員も一緒に食事・後片付けを行っています	調理担当職員が嗜好を取り入れて献立を作成し、近くの農家から新鮮な野菜が届くと慣れた手つきで皮むきや選別をしている。職員が育てた野菜を利用者が収穫して食材にし、時には外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じて、食事・水分とも適量を摂取できるよう工夫し、支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態にあった口腔ケアを行っています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせ、声がけや定時誘導を行い、排泄の失敗やおむつの使用を減らすよう支援しています	トイレ場所の混乱防止に誘導マークを表示している。個々の習慣や排泄パターンを把握して、日中は布パンツやパットを取り入れ、声がけや誘導で失禁の減少に努めるなど、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	不足のないよう、水分や野菜等を摂取していただいております、無理のない軽運動で予防に努めています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を最低限とし、その方の体調やタイミングに合わせて入浴を行っています	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援をしている。希望により、隣接の通所介護事業所の温泉で利用者はゆっくりと入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合った休息を適度に行い、日々の生活リズムや睡眠環境を整え、安眠できるよう努めています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方内容について理解し、見守りや介助で確実に服薬できるよう支援しており、症状の変化を確認しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性や力を活かし、お手伝いやレクリエーション活動が充実できるよう支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、外気浴やドライブ等できるだけ本人の希望に沿った外出の支援に努めています	天気の良い日は事業所周辺の散歩やお花、畑を見ながら外気浴をしている。函館山や町営の城岱牧場など普段行くことのない所に出掛け、外出を五感刺激を得られる貴重なチャンスとして活かしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金は施設管理で、所持されている方はいませんが、希望や必要があれば、対応します		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、支援に努めています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の生花を飾ったり、日々の写真を掲示し、快適な空間づくりに努めています	平成19年、1ユニットの増設で事業所内の構造に違いがあるが、両ユニット共に不快な臭いもなく、温度や湿度に配慮している。明るく清潔感があり、ボランティアの教示で完成した作品が飾られ、季節感を取り入れた装飾があり、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やソファで自由に過ごせるよう配置等に工夫をしています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具や寝具・日用品を使用していただき、心地よい居室となるよう配慮しています	各居室は陽当たりが良く明るく、馴染みの家具や日用品があり、遠方の家族の来訪時の写真が飾られ、お花やぬいぐるみがあり、一人ひとりが居心地の良さに創意工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりを設置し、居室口に表札や花の名前を表示、トイレには誘導マークを付け、自立を支援しています		